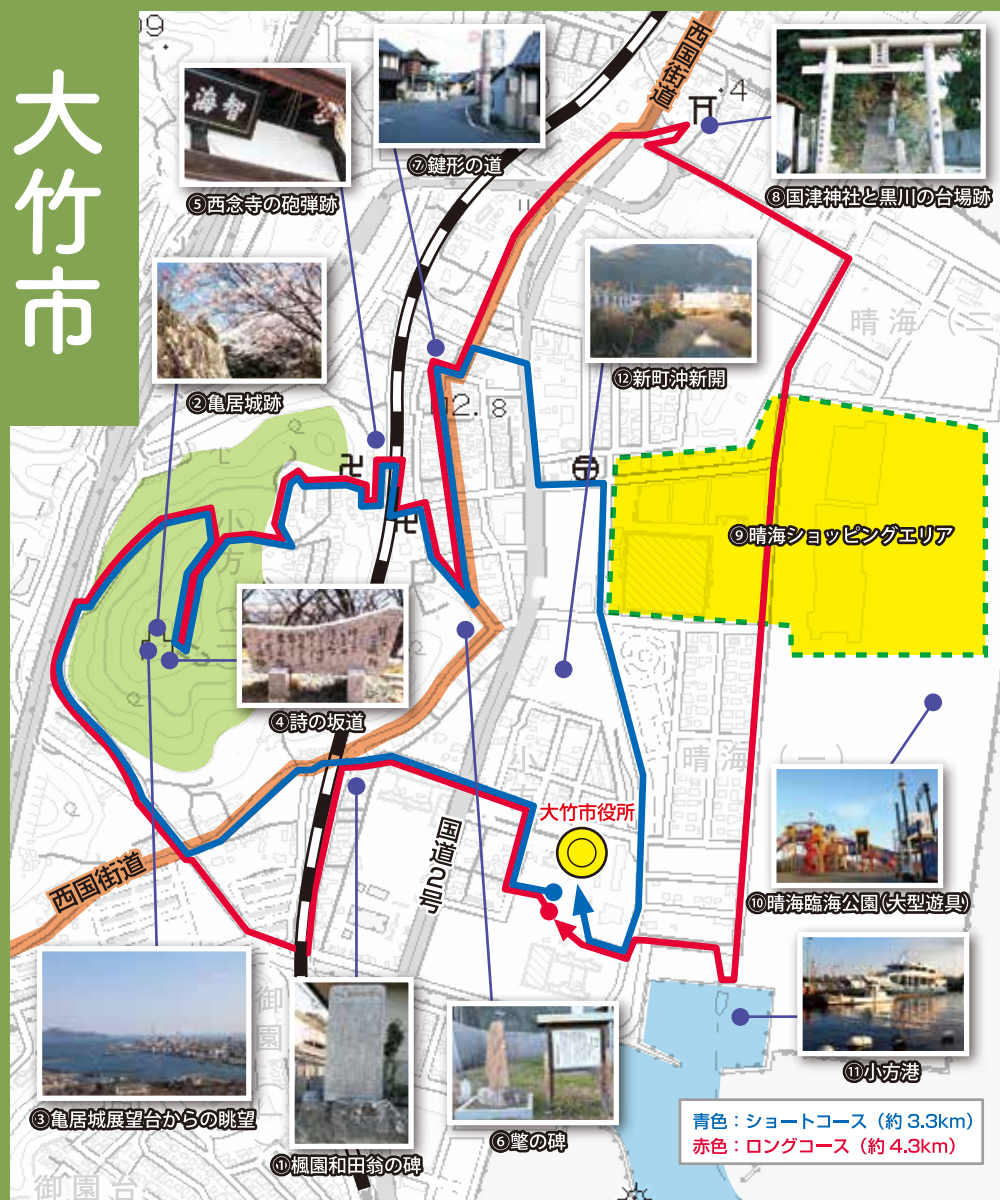


大竹市



- ① 楓園和田翁(ふうえんわだおう)の碑
俳句に傾倒し楓園と号した小方村の庄屋和田吉左衛門は、新町沖新聞の築調や度重なる風水害、長州戦争の被災対応等に尽力しました。その功績を称え、顕彰碑が建立されています。
- ② 亀居城跡
関ヶ原の戦いの後、福島正則は芸備2か国を与えられ、6つの支城を築きました。小方の亀居城は慶長8年から5年かけて完成しましたが、幕府の圧力によって、わずか3年で破却されました。今も古い石垣が三の丸など各所に残っています。名前は、地形が亀の形に似ているところから付けられました。
- ③ 亀居城展望台からの眺望
本丸からは大竹市の街並みやコンビナートのほか、瀬戸内海の島々が一望できます。また、春は桜、秋は紅葉が大変きれいな名所で、4月には亀居城まつりが開催されます。
- ④ 詩(うた)の坂道
大竹市出身の作詞家、石本美由起氏が作詞した「憧れのハワイ航路」「矢切の渡し」「悲しい酒」など名曲の数々を、石碑で紹介しています。
- ⑤ 西念寺の砲弾跡
第二次長州戦争において、西念寺は、進出してきた長州軍の本陣になりました。このため幕府側からの艦砲射撃による反撃を受け、現在も、本堂の肘木には砲弾の傷跡が残っています。
- ⑥ 鑿(げごろも)の碑
天保14年(1843)に松尾芭蕉の150年忌を記念し建てられたものです。その後、元治年間(1864～1865)に、俳人市川蘭史、永田斗泉らが鑿社(のちの清遊倶楽部)という俳句の会を組織しました。

- ⑦ 鍵形の道
西国街道の山道を玖波方面から黒川村に下りてくると鍵形の道に突き当たります。この道は、小方の町屋への入口にあり、城下町の特徴をよく残しています。
- ⑧ 国津神社と黒川の台場跡
黒川大膳川の河口の小山に、妙見皇の神(北極星)の小祠があり、妙見の杜と呼ばれていました。延宝4年(1676)に国常立の神を祭る国津神社となりました。神社の北隣に幕末、海岸防備の台場が設けられました。
- ⑨ 晴海ショッピングエリア
晴海の海沿いには、ショッピングモールやホームセンターなどの大型店舗が建ち並び、多くの買い物客でにぎわっています。
- ⑩ 晴海臨海公園
野球やサッカーができるグラウンドのほか、球技場、テニスコート、児童用大型遊具、トイレ、管理棟が設置され、春は梅まつり、冬は牡蠣まつりなど、様々なイベントが行われています。
- ⑪ 小方港
釣り場として人気の阿多田島を往復するフェリー乗り場があります。夜は対面の工場夜景が美しいスポットです。
- ⑫ 新町沖新聞
耕地の不足する小方村に、埋立てによって江戸時代(嘉永5年)に新町沖新聞が完成しました。周囲には、西国街道と新町川及び水利の調整のための潮遊池があります。

青色：ショートコース(約3.3km)
赤色：ロングコース(約4.3km)

廿日市市



- ① 福佐売神社(ふくさめじんじや)
節婦(貞操な女性)の榎本建福佐売(えのもとむらふくさめ)を祀った神社です。「三代実録」には、貞観14年(872)にその節操を称し位階を与えられたという記録が残っています。
- ② 遠見遮眼(とみしやがん)の町並
町家が斜めに構え、道がカクカクと曲がっています。その理由は、敵に一気に攻め込まれないためと、庶民は大名行列が見えなくなるまで土下座を強いられたので、早く行列が隠れるようにするためとも言われ、諸説あり、定かではありません。
- ③ けん玉商店街
廿日市が発祥のけん玉をモチーフにした飲食メニューや雑貨を販売する商店が立ち並びます。けん玉を描いたマンホール蓋は隠れた人気スポットです。
- ④ 廿日市天満宮
江戸時代中期から後期にかけて廿日市は北前船が入り出て栄えました。灯籠の明かりは灯台として沖をゆく船の安全を守っていたと伝えられます。
- ⑤ 廿日市本陣跡
大名や役人が宿泊した本陣です。廿日市宿の本陣役は山田氏が代々務めました。
- ⑥ 中国醸造
清酒を始め幅広い分野の酒類製造を手掛けています。蒸留所SAKURAO DISTILLERYでは、こだわりの広島県産原料を用いた純国産クラフトジンや広島初のシングルモルトウイスキーをつくる蒸留器を見学できます。
- ⑦ 津和野藩御船屋敷跡
津和野藩亀井家は元和6年(1620)広島藩との合意のもと、桜尾城跡の西側一帯に居留地を設け御船屋敷としました。
- ⑧ 街道松
寛永10年(1633)広島藩は幕府巡検使のために西国街道の整備を行い、街道の両側に松の並木を植えました。
- ⑨ 佐方一里塚跡
西国街道は寛永年間(1624～1645)に道幅二間半と定められ、三六丁ごとに一里塚が道の両側に設けられました。
- ⑩ JR廿日市駅
「木のまち」廿日市市の玄関口です。平成27年に木をふんだんに使った橋上駅舎として生まれ変わりました。
- ⑪ 洞雲寺前公園
昭和14年(1939)に東京・下関間を9時間で結ぶ「弾丸列車」の計画が立てられましたが、太平洋戦争の戦局悪化のため昭和18年度末に中止となりました。
- ⑫ 洞雲寺
嚴島神社の神主であった藤原教親・宗親父子が、長享元年(1487)に開山した寺院で、神主家の菩薩寺です。境内には、藤原興藤、陶晴賢、毛利元清夫妻の墓碑があります。

青色：ショートコース(約2.5km)
赤色：ロングコース(約3.4km)

- ① 塩屋神社
海老塩浜の鎮守として祀られ、嚴島神社の末社の一つです。現在は、五日市八幡神社の御旅所にあてられています。
- ② 海老塩浜跡
江戸時代初期に広島藩が海老山の西に開設しました。「入浜式塩田」で生産された良質な生塩は佐伯郡や山県郡へ売り渡されました。
- ③ 光禪寺誓いの松
延宝年間(1673～1681)に石井兄弟は、光禪寺の僧大忍の手助けもあり嚴島仁王門での仇討ちを成功させました。
- ④ 正向寺
当時の住人の桜井丈吉が僧となり龍乗と改め、元和2年(1616)に寺を建てました。
- ⑤ 光禪寺
浄土真宗本願寺に属し、旧佐伯郡最大規模を誇る寺院です。境内には数多くの墓碑や古樹も多く、広島市指定の保存樹に登録されています。
- ⑥ 五つ神社
祭神の五柱があり、五つ神社えびすさんとして親しまれています。五日市の地名発祥の地です。
- ⑦ 最広寺
当時の開基は毛利輝元の家臣古川嘉兵衛吉光です。彼は浄土真宗に帰依し発心すると、平素の忠勤を認められ、祖先伝来の木造一休を下され、現在もこの仏像は本堂に安置されています。
- ⑧ 品正寺(ほんしょうじ)
元禄年間(1688～1704)に品川源之進という武士が出家し、一字を建立し当時の開基となりました。品川の一字をとり寺号としました。
- ⑨ コイン通り商店街
昭和30年代後半から栄え始めた歴史ある商店街です。「金持ち神に会える街」をキーワードに、金持稲荷大社などの開運スポットや、開運グッズの販売を行っています。
- ⑩ 岡の下緑地
五日市中央1丁目の五観橋からJR山陽本線の線路付近まであり、日露戦争戦勝記念の松があります。
- ⑪ 楽々園街道松
西国街道に残る並木松です。大正時代までは道の両側に数多く並んでいましたが、現在は2本のみとなりました。

広島市佐伯区



青色：ショートコース(約3.0km)
赤色：ロングコース(約4.6km)